

2. 東日本大震災復興支援活動

2011年6月より定期的に行っている宮城県石巻市雄勝町での活動は、2018年度も、2回のボランティア活動を実施しました。石巻市でのボランティア活動は通算で20回を数えます。活動後は必ず学内で活動報告会を開催し、ボランティアを通じた気づきや経験を学内で共有しながら啓発する努力を継続しています。そうした学内での啓発活動の成果もあり、雄勝町で活動するボランティア募集の参加申込者数が定員を下回ることはありません。今年度は、募集説明会初日が大阪北部地震の発災日と重なり、延期になるなどのトラブルがありましたが、説明会への来場は178名、応募は111名ありました。宿泊などの関係上、定員を増やすことができないため、苦渋の選択で選考を実施し、各回30名ずつ、計60名を選抜しました。キャンセル待ちをする学生も多く、希望する学生全員に参加してもらえないのが非常に残念でなりません。参加者募集説明会は、深草・瀬田・大宮の全キャンパスで開催し、学生・教職員に対してコーディネーターが活動趣旨・リスクを十分に理解した上で参加するように呼びかけています。

参加が確定した後は、毎回、別途説明会を実施しています。説明会では、提出書類（参加申込書、活動誓約書・保証人同意書）と参加費（2万円）の受領後、確定しているスケジュールの詳細説明と活動に関する質疑応答を行い、最後に、全学部を参加対象にしたプログラムのため、初対面の学生が多いことを考慮し、参加者同士の自己紹介等をおこないました。

事業名	第1回東日本大震災 復興支援ボランティア活動
実施日／場所	2018年8月12日（日）～8月16日（木） 宮城県石巻市雄勝町
実施主体／運営	龍谷大学／ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	32名（学生30名、引率2名）
参加者名	永本峻太（文学4） 美浦駿二（社会4） 坂本 唯（国際4） 泉 枝里（文学3） 田原正太郎（文学3） 壽系祐太（法学3） 加藤祐衣（社会3） 津崎夏梨（国際3） 西岡 薫（国際3） 高橋拓光（経済2） 田中利奈（経済2） 坂本一心（法学2） 朝倉勇人（社会2） 大橋寛海（社会2） 辻 翔太（社会2） 横谷紅葉（社会2） 大平早葵（政策2） 川村有希（政策2） 嶋田拓真（国際2） 瀬戸山瑠衣（農学2） 城戸 聖（法学1） 小橋真理香（法学1） 高岡宏幸（社会1） 竹本綾汰（社会1） 奥井秋菜（国際1） 重垣杏奈（国際1） 中川佳音（国際1） 森川真雅（国際1） 大屋晴太郎（農学1） 小野田蓮（農学1） 引率コーディネーター：國實紗登美、竹田純子

1. 概要

第1回復興支援ボランティアのメインの活動は、「雄勝湾灯籠流し」の実施・運営のお手伝いでした。

具体的な作業としては、地元の皆さんや他大学のボランティアと一緒に灯籠を工房で約1000基作製し、灯籠を所定の場所まで運搬して並べ、それをリレー形式で地域の皆さんと協力しながら漁船に積み込む作業を行います。夕刻、灯籠を積み込んだ船で沖合に出て、一つひとつの灯籠のろうそくに火をつけながら海に流します。

翌日は、回収された灯籠等の片づけや雄勝ローズファクトリーガーデン（以下ガーデン）の整備作業をお手伝いしました。

ここ数年は、防災教育にも力を入れており、活動に入る前に、必ず一般社団法人 雄勝花物語が実施している防災教育を受講しています。講座では、座学で震災や津波の成り立ち、防災・減災について学びます。大川小学校の跡地や雄勝小学校跡地では、震災の爪痕を実際に見学しながら説明を受け、子ども達が避難した経路の一部を歩くなど、体験的な学習も盛り込み、自

然災害の脅威を少しでも体感できるようにしています。また、地元の方から震災当時のお話を聴く時間を必ず設け、活動の終了後は、それぞれの気づきや学びを共有するふりかえりの時間を作っています。

2. 活動スケジュール

○8/12 (日) 【1日目】

- ・8時に深草キャンパス（京都駅集合は8時15分）を出発し、バスの中でチーム作りのための自己紹介ワークや活動中の諸注意についてのインフォメーションを行う。休憩を挟みながら21時過ぎに宮城県石巻市中心部にあるビジネスホテルに到着し、宿泊。

○8/13 (月) 【2日目】

- ・8時30分にホテルを出発し、旧大川小学校に向う。一般社団法人 雄勝花物語の徳水先生に旧大川小学校の周辺を案内していただいた後、雄勝ローズファクトリーガーデンに移動し、座学で防災教育を受講。
- ・午後からは、雄勝硯生産販売協同組合の工房に移動し、地元の方から灯籠の作り方を教わりながらの製作作業。
- ・上品の郷で入浴と夕食。その後全勝旅館に移動。

○8/14 (火) 【3日目】

- ・午前中は雄勝硯生産販売協同組合の工房前で、前日の作業の続きを実施。
- ・浜供養に参列した後、地域の皆さんとリレー形式で灯籠を船に運びこみ、海上に灯籠を流す。
- ・灯籠流しの後、地元の皆さんが用意してくださったバーベキューを皆さんと一緒に楽しむ。
- ・21時ごろに宿に帰着し、入浴。

○8/15 (水) 【4日目】

- ・おがつ店こ屋街前に集合し、テント等の撤収作業。
- ・地元住民の神山氏と高橋氏から発災当日のお話を聴く。
- ・午後からは、まず、旧雄勝小学校へ行き、雄勝小学校の子ども達が実際に避難した経路の一部を歩き、津波の威力の一端を体験した後、雄勝ローズファクトリーガーデンで取り組まれている「北限のオリーブ園」草引きやレンガ敷きなど、ガーデンの整備のお手伝い。

- ・上品の郷にて入浴と夕食。バスの中でふりかえりをしながら京都に向けて出発。

○8/16 (木) 【5日目】

7時に起床し、朝食休憩の後、京都駅と深草キャンパスにて解散。

3. 参加者の声

- 参加者アンケートや寄せられた声からの抜粋
- ・「復興支援」という言葉がどういったことを意味するのか疑問を持ち続けたままでの参加でしたが、瓦礫の撤去作業などのような物理的な作業だけではなく、地元の方と話すことや、その地域に元からあった行事を一緒につくっていくことなど、人間を通して地域を盛り上げていくことも復興の一部なのだと今回の参加を通して強く実感しました。実際に体を動かす作業だけでなく、防災教育のレクチャーや地元の方からお話を聞く時間、津波の高さを体験するなど、学びの要素を含んだボランティアという点が非常によかったです。
- ・私は初めて、ボランティア活動というものをしました。自分が知らなかった現実や知識が沢山あったのと、間違った情報を受け入れていたことに、驚いたり再認識させられ、学校では教わらない高い水準の防災意識を持つことに繋げることが出来ました。ボランティアというお手伝いのイメージが強いですが、それ以上に地域の方とコミュニケーションや防災に対する新たな知識を養うことができました。それらを持ち帰り決して避けられない南海トラフ大地震に関して、自分がどうすべきなのか見つめ直すのと同時に他の人にも伝えていきたいです。



4. コーディネーター所感

2013年から参加している「雄勝湾灯籠流し」だが、今年ほど、暑さに悩まされることはなかった。全国的に災害級と言われるほどの猛暑が続き、例年は比較的涼しい雄勝町でも、海風が通らず、非常に暑い中での活動となった。熱中症対策は、今後一層注意が必要となるように感じている。

今回の活動では（新しい建設物も出来始めているが）今まであったトイレやカフェが無くなり、海風が通らなくなるなど、誤解を恐れずに言えば、私たちが今まで活動してきた地域が少しずつ不便になっているように感じてしまった。例年、浜供養や海に灯籠を流す際には地元の方がたくさん来られ、毎年お会いする方もい

るのだが今年は会えなかった。聞くと、高台移転した地元高齢者は、海辺まで降りてくる移動手段も限られるため、ご自宅から見ていたとのことだった。人が居なくて寂しいようにも感じるが、一緒に見ている方がいることを、学生にきちんと伝えなければならないと思っている。

「復興とは、一体どういう状態をさすのか？」明確な答えはない。だからこそ学生と一緒にこの場所に来て地元の人から学び、一緒に動き、話し、空気を感じなければと思う。未来を想像し、考え続けることの重要性が一層高まっていると感じている。

〈報告者：竹田 純子

（深草キャンパス コーディネーター）〉

企 画 名	第2回東日本大震災 復興支援ボランティア活動
実施日／場所	2018年9月6日（木）～10日（月） 宮城県石巻市雄勝町
実施主体／運営	龍谷大学／ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	32名（学生30名、引率2名）※2名が台風被害の影響で参加できず
参加者名	武村純一（政策 M1） 辻本一成（文学4） 森下真実（文学4） 藤原 純（文学4） 山内智貴（文学4） 西村 篤（政策4） 大島昌瑚（農学4） 岸田裕衣（文学3） 玉川隆明（文学3） 吉田 響（文学3） 富島奈々実（経営3） 萩森紀恵（経営3） 中尾明日香（政策3） 李谷亜也衣（政策3） 木村太翼（文学2） 高島優菜（経済2） 中川寛喜（経済2） 松岡俊希（法学2） 吉田 樹（法学2） 木村卓真（社会2） 安本大輝（法学1） 世田丈貴（法学1） 太田夏月（社会1） 大野憲秀（社会1） 北川善斗（政策1） 平井陽菜（政策1） 後藤好海（国際1） 日比裕美子（農学1） 西垣彩花（短大1） 橋本実紅（短大1） 引率コーディネーター：竹田純子、古澤登美代

1. 概 要

第2回復興支援ボランティアのメインの活動は、「雄勝小・中学併設校の大運動会」の準備と当日の運営を補助する活動でした。前日の大会準備、競技中のサポート、場面転換のための器具の入れ替え、競技への参加、応援の盛り上げ、運動会終了後の片づけなどを行いました。運動会終了後には、雄勝支所の及川課長のお話を聴かせていただき、翌日には、地元の高橋氏から震災直後の頃のお話を伺いました。

他にも第1回の活動同様の内容で、防災教育を受講しました。大川小学校跡地では、ご遺族でもある大川伝承の会の佐藤氏に出会い、ご厚意で一緒にお話を聴かせていただくこともでき

ました。

雄勝ローズファクトリーガーデン（以下ガーデン）では、ガーデン内の整備として、通路にレンガを敷く作業や、翌週開催されるツール・ド・東北の道を彩る花の手入れを行いました。

活動の終了後はふりかえりの時間も設けて、気づきを共有するようにしています。

2. 活動スケジュール

○9/6（木）【1日目】

・8時に深草キャンパス（京都駅集合は8時15分）を出発し、バスの中でチーム作りのための自己紹介ワークや活動中の諸注意についてのインフォメーションを行う。休憩を挟みながら

21時過ぎに宮城県石巻市中心部にあるビジネスホテルに到着し、宿泊。

○9/7（金）【2日目】

- ・8時30分にホテルを出発し、旧大川小学校に向う。一般社団法人 雄勝花物語の徳水先生に旧大川小学校の周辺を案内していただいた。途中で大川伝承の会の佐藤氏に会い、ご遺族としての話を聴かせていただく。その後、雄勝小学校跡地へ行き、雄勝小学校の子ども達が実際に避難した経路の一部を歩いて津波の威力の一端を体験した後、ガーデンに移動し、徳水先生から座学で防災教育を受講。
- ・午後からは「雄勝小中学校併設校大運動会」の準備（テント建てなど）のお手伝いを行う。
- ・ガーデンにて、地元の方たちのお手製カレーで夕食。その後上品の郷で入浴。
- ・全勝旅館で宿泊。夜にふりかえりと運動会の打合せを実施。

○9/8（土）【3日目】

- ・早朝に宿を出発し、「雄勝小中学校併設校大運動会」の運営のお手伝い。競技に出場する際には、紅白のチームに分かれ、地元の人達や子ども達と一緒に競技に参加した。運動会終了後は、片づけを手伝い、雄勝支所へ移動。
- ・雄勝支所で及川課長からお話を聴く。
- ・上品の郷で入浴・夕食を済ませた後、旅館に帰り、ふりかえり。



○9/9（日）【4日目】

- ・午前中に地元住民の高橋氏からお話を聴く。
- ・ガーデンで整備活動として、ガーデン内の道を作ったり、来週開催されるツール・ド・東北の道を彩る花の手入れを行った。
- ・上品の郷で入浴・夕食後、20時にバスの中でふりかえりをしながら京都に向けて出発。

○9/10（日）【4日目】

7時に起床し、朝食休憩の後、京都駅と深草キャンパスにて解散。

3. 参加者の声

- 参加者アンケートや寄せられた声からの抜粋
 - ・私は今回実家のある愛媛の豪雨や1人で地震を経験したことがあり、自分事と思って参加をしました。初めて、実際に娘さんを亡くした方のお話を聞きました。本当に言葉には出来ないけれど心の中では様々な感情が湧いてきました。東北に来るとどうしても空気が違って感じます。けれどその様々な感情も空気も私にはかけがえのない学びになったと思います。初めて自信を持つことができたボランティア活動であり、龍谷大学に来て良かったと心の底から思いました。
 - ・活動すること全てが初めての経験で、人としてとても成長出来たかなと感じました。マスメディア越しでは分からない現状や当時のお話を自分の目で耳で感じ取ることは、とても大事なことなのだと分かりました。

4. コーディネーター所感

今年で2回目の実施と言うこともあり、先生方と事前に細かく連絡を取り合いながら本番に臨むことが出来ました。昨年度よりも役割が増えましたが、学生達はそれぞれ積極的に動き、顔が活き活きしていたように感じています。

ある先生から「学生さん達が来てくれたので、ゆっくり子ども達の様子を見ることが出来た。それをとても感謝している」と言っていたことがとても嬉しく心に響きました。活動先では、たくさんの言葉をかけていただきますが、この言葉からは、ボランティアがいたからこそ作り出された“プラスαのゆとり”“ボランティアの存在意味”が表された言葉のように感じたからです。ボランティアは単なる労働力ではありません。だから、ボランティアが居なくては実施出来ない運動会ではなく、居なくても運動会は出来るけれど、ボランティアが居たからこそ、より豊かな運動会になったということが大切だと考えています。

今年は自然災害が多発し、今回の活動に出発する直前にも、関西に大型台風が直撃して各地に大きな被害が出ました。参加予定者が参加出来なくなる事態も起こりました。改めて、自然災害の脅威を私たちは実感しました。「身近な地域で起こる自然災害と東日本大震災を別のものとするのではなく、これらは地続きである

と認識し、東日本大震災を知ることは地元の防災・減災を考えることでもある」と理解してもらえるように、プログラム内容をより工夫しなければならぬと考えています。

〈報告者：竹田 純子
(深草キャンパス コーディネーター)〉

事業名	東日本大震災 復興支援ボランティア活動報告会
実施日／場所	【第1回】2018年10月 1日（月）12：45～13：20 【瀬田】6号館プレゼンテーション室 2018年10月 2日（火）12：25～13：00 【深草】和顔館 B106教室 【第2回】2018年10月 4日（木）12：45～13：20 【瀬田】6号館プレゼンテーション室 2018年10月 5日（金）12：45～13：20 【深草】和顔館 B106教室
実施主体／運営	龍谷大学／ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	学生、教職員のべ100名

1. 概要

2018年度の第1回【8月12日（日）～8月16日（木）に実施】、第2回【9月6日（木）～10日（月）に実施】の東日本大震災復興支援ボランティア報告会を深草、瀬田の両キャンパスで開催しました。

報告会の流れは以下の通りです。

- ①報告を聴きに来た参加者に、5～6人程度のグループに分かれて座ってもらう。
- ②活動の詳細をまとめた資料を配布。
- ③各回とも全員で活動の様子をまとめたショートムービーを上映
- ④活動に参加した学生（2～3人）が各グループ入り、参加者に活動内容や活動中に感じたことなどを報告。

※活動の詳細については、各回の報告をご一読ください。



2. ボランティア活動に参加した学生の声

- ・瓦礫の撤去作業のような物理的な作業だけではなく、地元の方と話すことや、その地域に昔からあった行事を一緒につくっていくことなど、人を通して地域を盛り上げていくことも復興の一部なのだと今回の参加を通して強く実感した。

- ・去年参加して普段の生活では得られないような体験ができたので、今年も参加した。地元の人が顔を覚えてくれていて嬉しかったし、行き続けることにも意味があると感じた。
- ・運動会で一緒だった雄勝中学生が小学生の面倒もよく見るなど自分たち大学生以上にしっかりしていて、地域ぐるみで子育てに取り組まれていることが印象的であった。

3. コーディネーター所感

全般的に報告会参加者の満足度は高かったのですが、報告会に参加する学生の参加のしやすさを考慮して、昼休みに報告会を開催したため、活動の詳細や参加学生の思いを十分に伝えるための時間は足りなかったように感じています。

これからも報告会の実施の仕方に工夫を凝らしながら、活動に参加した学生達の声届け、東日本大震災に関する関心の低下を防ぐ努力を続けたいと思います。



〈報告者：竹田 純子
（深草キャンパス コーディネーター）〉

企 画 名	東日本大震災追悼法要におけるパネル展示
実施日	東日本大震災追悼法要：【瀬田】2019年3月6日（水）12時00分～13時00分 【深草】2019年3月8日（金）12時00分～13時00分 パネル展示：【深草・瀬田】2019年3月5日（火）～3月18日（月）15時00分
場 所	【深草】顕真館ロビー 【瀬田】樹心館ロビー
発表者	【深草】西山大樹（政策4） 【瀬田】大屋晴太郎（農学1）
実施主体／運営	龍谷大学／宗教部／ボランティア・NPO 活動センター

1. 経緯・目的

本学では、これまで約700名の学生や教職員が、東日本大震災等復興支援ボランティアに参加し、学内での啓発活動等への参加者を含めると、更に数は増えます。

東日本大震災以降も、大きな震災が国内外で多発しました。特に2018年は台風などの自然災害も多発し、甚大な被害が発生しています。3月11日を考えると、東日本大震災のみならず、様々な自然災害等により、多くの方が亡くなられ、被害にあわれた方々がおられることをも思わずにはられません。犠牲となられた方々を偲びつつ、すべての被災者および関係者の方々に改めてお見舞いを申しあげ、一人ひとりの“復興”に寄り添うとともに、いのち恵まれていることの不思議さ、有り難さに深く目覚め、学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」機縁として、東日本大震災追悼法要を勤修しました。

2. 概 要

宗教部が勤修した法要の中で、深草と瀬田の学生スタッフが「東日本大震災復興支援ボランティア」と「福島スタディツアー」で見た被災地の今と、活動を通じた気づきについて報告を行いました。

また、2018年度の東日本大震災復興支援ボランティアと福島スタディツアーの活動報告のポスターを作成し、法要会場の入り口に展示を行いました。

【東日本大震災追悼法要】

■瀬田学舎

日時 2019年3月6日（水）12時～13時
場所 樹心館
法要 勤行 讃仏偈
調声・講話 杉岡孝紀 宗教部長代理・農学部教授
報告 ボランティア・NPO 活動センター学生スタッフ

■大宮学舎

日時 2019年3月8日（金）9時～9時30分
場所 本館講堂
法要 勤行 讃仏偈
調声 能仁正顕 宗教部長
講話 金澤 豊 実践真宗学研究科実習助手



■深草学舎

日時 2019年3月8日（金）12時～13時
場所 顕真館
法要 勤行 讃仏偈
調声 能仁 正顕 宗教部長
講話 入澤 崇 学長
報告 ボランティア・NPO 活動センター学生スタッフ

3. コーディネーター所感

本学では、2012年度から毎年法要が勤修され、その法要に合わせて震災に関する展示や法要中の講話で震災について語る機会をいただいています。

震災の記憶を大切にすることはもちろんですが、震災の犠牲になった人を想い、一緒に想いを分かち合い、追悼する時間があり、その中で想いを伝える時間があることはとても貴重だと思っています。

〈報告者：竹田 純子
（深草キャンパス コーディネーター）〉